

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol 5. No. 15 2003 年 9 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■NTT-BB、標準 TV なみのテレビ会議サービス開始

NTT ブロードバンドイニシャティブ(以下 NTT-BB、東京都千代田区)は、MPEG-2 を利用した標準テレビなみの品質をもつ法人向けテレビ会議サービス「WarpVision」を開始した。従来、高品質のテレビ会議には高価な装置などが必要であったが、NTT サイバースペース研究所が開発した、MPEG-2 リアルタイムソフトウェアコーデック構成技術(RISCA)を活用することにより、専用のソフトウェアを PC にインストールし、カメラやマイクなどを接続するだけで高品質な映像通信できる。

映像品質は、VGA(640x480)で每秒 30 フレームの CODEC 処理、また遅延については、最大片方向 200msec の低遅延を実現。さらに、パケットロスに対する映像・音声の劣化抑制にも対応している。そして通信プロトコルは、SIPを採用。

NTT-BB では、NTT サイバースペース研究所が開発した CODEC 技術に加え、プレゼンス機能、コミュニケーション機能を付加したネットワークシステムの開発及びサービスの商品化を担当。

利用料金は、初期と毎月それぞれ 15,000 円、それに加え利用に応じた従量課金 60 円/分が別途かかるが、従量料金については、利用に応じて定額化することも可能という。光接続サービスである BFlets サービスの利用ユーザーが対象となる。

■ニフティとプロハウス、法人向けテレビ会議サービス開始

ニフティ(東京都品川区)とプロハウス(東京都目黒区)は、法人向け PC 用テレビ会議サービス「EyeballMeeting(アイボールミーティング)」を 9 月 2 日から開始した。同サービスは、両社が共同で企画したサービスで、開発はプロハウスが行い、サービス提供はニフティの法人サービス「アット・ニフティ法人サービス」にて行う。

「EyeballMeeting」は、IPブロード環境とPC、カメラ、マイクなどがあれば、サーバーの設置やクライアントソフトの

ストールなどは不要で、月額利用料金 6000 円で 3 アカウントが利用できる。アカウント数は最大で 30 まで有料で増やすこともできる。初期費用と初回登録月の費用はかからない。

また、無料お試し版もあり、利用開始から最大 48 時間まで「EyeballMeeting」の全ての機能を無料で利用できる。

サービスを利用するためには、基本的に@Niftyの会員登録が必要だが、特定の会議のみ参加できる「ゲストID」機能(有料)もある。無料お試し版は、@Nifty 会員以外も利用ができる。

サービスとしては、最大 30 名までのテレビ会議を行うことができ、パワーポイントなどのファイル共有機能、またホワイトボード機能、テキストチャット・インスタントメッセージ機能などもある。さらに、会議毎に、P2P接続とクライアントサーバー接続の切り替えも行える。

■NTT ドコモ、テレビ電話可能 PC カード型 FOMA を発表

NTT ドコモ(東京都千代田区)は、9 月 12 日、PC カード型 FOMA「F2402」を発表した。販売開始は、9 月 13 日から。

送受信最大 384kbps のパケット通信、64kbps のデータ通信が可能。また、Windows PC を通じてテレビ電話対応の FOMA 端末、または FOMA の 3G-324M 方式に対応した NTT 東西が販売している Moppet(3G-324M/H.320 両対応)のテレビ電話とも通信ができる。テレビ電話で使われる帯域は、上り/下りとも 64kbps または 32kbps。

価格は、オープン価格と報道発表には表示されているが実売価格は 12,800 円。基本的にはインターネットホームページでの販売になるようだ。申込み後 1 週間程度で商品が届く。ドコモショップでの購入になると取り寄せになり、価格が変わる可能性がある。(ドコモ問い合わせ電話)

オプションに、スイッチ付イヤホンマイク 2,100 円がある。

■ジェイウェブ、Web 会議の無料体験デモ開始

ジェイウェブ(神奈川県横浜市)は、9月11日より同社が販売するインターネットテレビ会議システム「LiveCastFX」の無料体験デモを開始した。

「LiveCastFX」は、今年4月28日に発表された。パソコンとインターネット環境があれば低価格で導入できる。動画、音声の双方向リアルタイム同時通話、ホワイトボード機能、テキストチャットなどが可能。サーバーには、マクロメディア社のFlash Communication Server MX、クライアントには、Flash Playerを使用している。

基本的な機能は、司会者(MC)の1名と参加者7名の合計8名が同時接続が可能。ホワイトボードとチャット機能などがある。価格は、会議システム基本コンポーネント298,000円(消費税別)。

■米 VTEL 社、中国で 38 台導入

中国国家林業省(SFAC)が米 VTEL 社のテレビ会議システムを38台導入した。中国国内の省、市、自治区など36箇所に設置した。森林管理デジタル化プログラムの一環としてテレビ会議を活用し、出張費、時間などの削減と効率化を図る。

■米セントラ社、中国で 5 社受注獲得

ウェブ会議ソリューションを提供する米セントラ社は、中国の企業5社から受注を獲得したと発表した。社内遠隔教育やトレーニングなどに活用される。中国のリセラーは、Ikonnnet Technologies 社。セントラ社のソリューションは、世界で1200社に導入されている様子。

■米 8x8 社、米ナスダック市場からの上場廃止免れる

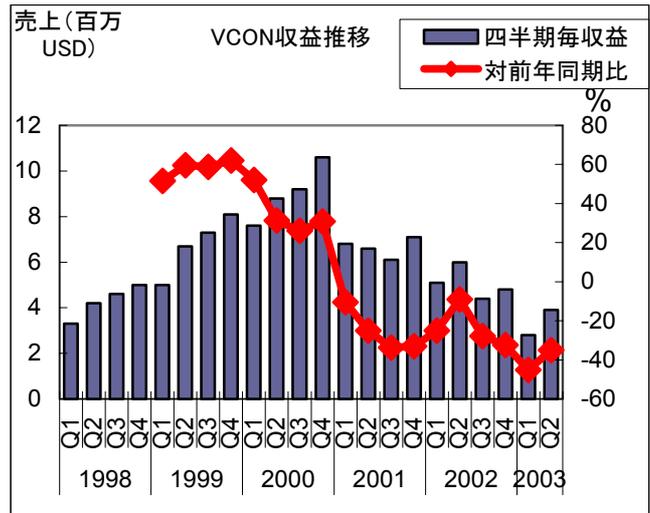
米8x8社は、Nasdaq 上場資格委員会(NLQP)より通告があり、ナスダック・スモールキャップ・マーケット(ナスダック・ナショナル・マーケットに対するもの。ベンチャー向け)が要求する上場基準を遵守しているとして、上場継続となった。(1)マーケット・ルール 4310(c)(4)に基づき、過去12日間の市場取引の間1ドル基準を満たした。(2)マーケット・ルール 4310(c)(2)(B)に基づき、3,500万USD(約41億円)の時価総額基準を満たした。また、最近就任した Don Willson 氏の監査役就任基準等にも問題がないとした。

■米ポリコム日本法人本社移転

米ポリコム日本法人(東京都港区)は、9月16日をもって、「東京都千代田区紀尾井町 6-12 紀尾井町福田家ビル 6階」へ移転する。

業績発表(第二四半期:2003年4月-6月) Part III

■ブイコン社(VCON)



イスラエル VCON 社の第二四半期の収益は、390万USD(約4億6千万円)を計上し、2001年第一四半期から右肩下がり傾向で、2003年第一四半期で底を打ったかたちで収益の悪化に歯止めがかかったようだ。

第一四半期の280万USD(約3億3千万円)からは38%の収益増ではあったが、前年同期比では、60%のダウンとなった。

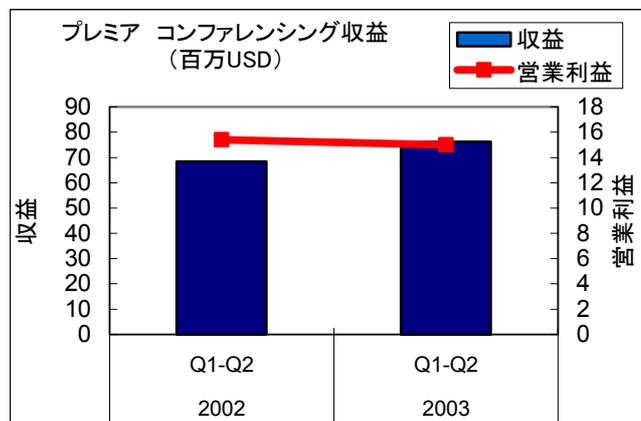
今四半期で収益は改善したが、純損失は、150万USD(約1億7600万円)を計上した。しかし、前四半期の220万USD(約2億5500円)からは改善した。

同社CEOのYair Shamir氏は、今四半期が今後の四半期につながることを期待するといった趣旨のコメントを発表し、ここ数四半期における機能拡張、追加やVCON SecureConnectなどセキュリティ関連製品の強化などが今回の収益改善に貢献した模様。

また、財務担当副社長であるJack Wakileh氏によると、収益改善は特にアジア太平洋地区の市場が大きく貢献したといったコメントを出している。また、損失の補填のため資本金の減額を行った模様。

■プレミア コンファレンシング社 (米 PTEK ホールディングス)

下記グラフ:2003年1月から6月までの収益結果比較



(単位:百万 USD)

		収益	営業利益
2002	Q1-Q2	68.4	15.4
2003	Q1-Q2	76.3	15.0

音声会議、ウェブ会議サービスを提供する米プレミア コンファレンシング社は、米PTEKホールディングス社の傘下企業(その他に、エクスパダイト社と呼ばれるマルチメディアメッセージングサービスを提供する会社がある)。日本にも現地法人がある。

PTEK ホールディング社が発表した業績発表によると、プレミア コンファレンシングの第二四半期の収益は、3970万USD(約46億7千万円)、第一四半期の3660万USD(約43億円)から8.5%の収益増、前年同期比で、13.4%増を記録した。

営業利益は、1月-6月期で、1500万USD(約17億6千万円)を計上、前年同期は、1540万USD(約18億1千万円)であった。

PTEK ホールディング社第二四半期連結決算ベースでは、プレミア コンファレンシングとエクスパダイト合算で、9490万USD(約112億円)、前年同期(8740万USD)比で8.6%増。プレミア コンファレンシングが全体に占める割合は、2002年第二四半期の40%から今四半期では、41.8%と比重を若干ではあるが上げている。逆にエクスパダイト社の比率は、60%から58.2%へ減少している。

また、PTEK ホールディング社のNASDAQ市場での株価については、今年の3月頭頃の4USD弱から最近(2003年9月中旬)では、7.5USDまで伸びてきている。

2002年度の事業報告の中でPTEK ホールディング社CEOのBoland T. Jones氏は、プレミア コンファレンシングのマーケットシェアは8%で、同社事業を引っ張る花形(Star)サービスが予約不要のReadyConferenceと説明している。

また、同社発表資料によると、海外ビジネスでの伸びが著しく2002年第二四半期と2003年第二四半期とを比較して倍になったが、トータルでの海外ビジネスの貢献度は、全体の収益の16%。金額に直して、635万USD(約7億4600万円)。

今年最近に出された米証券取引委員会SEC提出資料FORM-10-Q報告書(P13)によると、プレミア コンファレンシング社の収益は、2003年前期6ヶ月で計上した収益の27.5%(金額ベース:2098万USD)がIBMから来ていると報告されている。前年同期では、29.6%(金額ベース:2024万USD)であったので、若干比率は落ちたが、金額は若干増加している。約1/3の収益がIBMに依存しているという収益構造を持っている。

プレミア コンファレンシングの事業概要については2002年度の年次報告をみると、世界全体の社員数が880名、年ベースの収益が1億3800USD強(約162億2千万円)、世界11カ国で事業を行っている。現在6000社の法人顧客を抱え、Fortune500社の半数が同社サービスを利用しているという。

年間2500万人の電話会議参加者数をハンドリングしている。設備的には、48,000強のポートを持ち、年間10億分もの会議時間を処理している。

日本国内では、2000年にエクスパダイト株式会社の一事業部としてサービスを開始し、2002年にはプレミアコンファレンシング株式会社を設立、ReadyConferenceに加え、オペレーターアシスト会議(Premiere Call Auditorium)とインターネット会議(ReadyCast)のリリースを行っている。(CNA Report Vol.5 No.8 参照)

(業績発表 終わり)

展示会レポート

台北国際電信暨網路展覽會

TAIPEI TELECOM 2003

2003年8月23日-26日 台湾台北世界貿易センター

<http://www.taipeitradeshows.com.tw>



TAIPEI TELECOM 展示会場

SARS の影響で開催が延期になっていた TAIPEI TELECOM が去る8月23日から26日まで台北世界貿易センターで開催された。最寄りの MRT 市政府駅からハイヤットホテルを目指して徒歩 10 分程度、駅からはハイヤットのビルがすぐわかる。

25日、26日と2日間会場に行ってきたが、私は地下鉄 MRT 民権西路駅近くの日系のビジネスホテルに泊まりそこから2日間地下鉄&徒歩で通ったがドアツードアで30分もあれば会場に到着したので便利だったが、台北は毎日35度もあってスーツの上着などは着れたものではなかった。

また、台北の人々は、SARS はどこ吹く風という感じでマスクをする人もなく、ごく平然と日々の生活を行っている感じだった。ただ、道路のスクーターバイクに乗っている人の多さには驚いた。(初の台北なので)

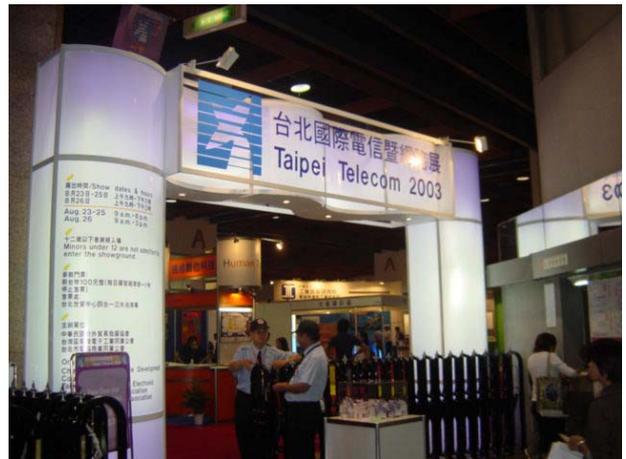
前置きが長くなったが、TAIPEI TELECOM 会場で配布されたフロアマップで数えると81社出展していた。そのうち、テレビ会議、電話会議関連は10社近く出ている。テレビ電話メーカーや電話会議端末メーカー、多地点サービス通信事業者、携帯テレビ電話などの展示があった。

来場者もそれなりに入っていたと思う。去年は4万人だったようだが、ただ、出展社数がおそらく SARS の影響と、延

期されたということも重なり、少なかった。ちなみに去年は、137社が出展した。

ちなみに、日系企業だと、NTT ドコモ/和信電訊股份有限公司(FOMA や I-mode などの展示)とソニー(Sonet インターネットサービス、パソコン、SonyEricsson 携帯などの展示)があった。

TAIPEI TELECOM 以外にも、パソコン関係の展示会や自動車関係の展示会もパーティーを隔てて開催されていた。



複数ある出入口のひとつへ入場券を確認するスタッフ

テレビ会議セミナーセッションは満席

会場では展示だけでなく、日本の展示会でもよく見られるワークショップセッションなども行われ、中国語はわからないが、スライドを見ればなんとかわかりそうだったので参加してみた。30分ほどのセッションだったが、その中で IP-VPN を使ったテレビ会議入門&事例のセッションが行われ、H.323、SIP などの専門用語の解説、IP-VPN でのテレビ会議と VoIP を組み合わせたりした利用事例のセッションが行われていた。席数は、100はざっと数えてあったがほぼ満席状態で関心の高さが伺えた。

ENUM トライアルプロジェクト

また、台湾には、SIP/ENUM フォーラム・台湾という組織があって、2003年度は70万USD(約8200万円)の予算で、ENUM トライアルプロジェクトを立ち上げたそうだ。ENUM は、E.164 番号をドメインネームサーバー(DNS)に設定し、VoIP の番号アドレス解決を行う方法を言うが、その利用促進を台湾全土で図っていくための、ENUM 運用

のノウハウなどを蓄積するプロジェクトを立ち上げる。プロジェクト後は、台湾政府に ENUM に対して国家的な優先順位を付けてもらえるよう働きかけを行うそうだ。

アジアはテレビ会議が強い？

今まで韓国、香港、インドと回ってきたが、感じとしてはテレビ会議が、電話会議よりも注目されているという印象を持った。台湾も同じようだ。香港自体は音声会議がテレビ会議よりも多用されるようだが、中国本土は違うようだ。

特に香港に行った際に、ITU-TELECOM 香港展示会で中国人などと話しをしてみると、遠隔会議ソリューションという、IP テレビ会議しかないという感じで、IP テレビ会議のソリューションは至る所で見られたが、電話会議や ISDN テレビ会議はほとんど聞かれなかった。香港在住の方々にも話しを聞いたが、「香港では電話会議が強いが、中国本土では IP テレビ会議。」という人が多かった。また、インドも同じで、多地点サービス業者が7社ほどあるようだが、音声会議サービスを提供しているのは、3社しかなく、7社全てがテレビ会議サービスを提供していた。インド人に聞いても、インドでビジネスをしている欧米人に聞いても答えは同じだった。ただ、音声会議は全くないというわけではなく、音声会議も使われているがどちらかというとテレビ会議に関心が高いということ。あるインド人が言っていたが、「欧米ではどちらかというと音声会議が多用されるが、アジアではテレビ会議により関心が高い。それは文化的な理由からではないか。」といったコメントがあった。

台湾でもテレビ会議が注目の的—特に SARS 後

展示ブースを周り各ブースの担当者に台湾では音声会議、テレビ会議とどちらの関心が高いと思うかというような質問も行ったが、“視訊會議”(テレビ会議)が企業には“會議電話”(音声会議)よりも受け入れられているようだ。

TTN 台湾電訊のブース(写真右上:ポリコム社の Viewstation で IP テレビ会議のデモを行っていた)の担当者は、「特に SARS 後は、テレビ会議に対する関心が高まり、テレビ会議端末の販売が 5、6、7 月と伸びているという話を聞いた。音声会議に対しても関心は高まったようだが、テレビ会議ほどではなかったようだ。」TTN 台湾電訊は、台湾の電気通信事業者。



通常の通信サービス以外にもテレビ会議、音声会議多地点サービスも提供しているが、ポリコム社のテレビ会議製品も販売しているようだ。ただ、テレビ会議サービスを単独のサービスとして全面に出してビジネス展開を行っているというよりは、企業顧客毎に IP-VPN などのソリューションを提案する際にひとつのアプリケーションとして提供しているという面が強いようだ。

また、V3oP(Voice, Video, VPN の 3 つの V)のデモとして PC ソフトベースのテレビ電話と、TANDBERG1000、VoIP 電話(台湾製)の VPN による相互接続デモを行っていた。

台湾固網と呼ばれる通信事業者のブースではカタログベースでの説明だったが、テレビ会議、音声会議の多地点サービスを提供している。

あいにくこちらは中国語ができない、相手に英語が堪能な担当がいなかったということもあって詳しい話ではできなかったが、音声会議については、予約不要なサービスを行っており、ダイヤルイン(音声会議番号へコールすること)でかけた場合 50 人まで同時参加の会議が開催できるようだ。音声会議サービス費用については、会議設定費が、200 元(約 690 円)、会議利用費が端末当たり、1分 6 元(約 20 円)、8,100 元(約 27,800 円)10%割引から始まり、54,000 元(約 186,000 円)以上では、4 割引などの大口割引もあるようだ。また、IP によるテレビ会議多地点サービス(「多點視訊會議」服務)を提供している。

SIP、MGCP 対応テレビ電話—今秋リリース

また、環隆科技股份有限公司(UMEC)のブースでは、IP 用映像電話(テレビ電話)CU-711 を展示していた。同社プロジェクトマネージャー呉俊賢氏によると、今秋には SIP、

MGCP 対応にするとのこと。

台湾ではこれから SARS の影響もあって映像通信に対する需要が大きく拡大すると見る。CU-711 のスペックをみると、H.323v2 に対応し、映像は H.261,H.263+、音声は G711、G723.1 をサポート。ビデオ、オーディオ入出端子があるため、外部モニターへの出力したり、たとえばビデオを入力したりということもでき、たとえばビデオを TFT のモニター(NTT PhoenixMini のテレビ電話のモニターサイズほどの大きさ)で観ていてテレビ電話



UMEC CU-711

がかかってくると切り替えてテレビ電話に出るといった簡単なデモをしてくれた。

その他、同社では、監視用のウェブカメラ(HUBに接続して使用するタイプ)や、セットトップタイプのアナログ電話用の CU-10 も展示していた。

日本に支社がある麗臺科技股份有限公司(Leadtek)は、IP テレビ電話 BVP8775(スタンドアロンタイプ)と、BVP8750(セットトップタイプ)、ウェブカメラ LTC-3603などを展示していた。

電話会議関連

また、電話会議端末としては、東訊股份有限公司(TECOM)が DU8806S を、また、台湾華鼎電子公司(Multisuns)の販社である程曦資訊整合股份有限公司(CSII)が、台湾華鼎電子公司が開発した ConferStation DF-2000 を展示していた。(正確に言うと、程曦資訊整合は、TAIPEI TELECOM に出展しているのではなくて、隣で開催されていたパソコン関連の展示会に出展していた。)

写真下が、DU8806S になるが、同社のマネージャー敦

慈娟氏によると、価格はアメリカドルで、300USD はしないそうだが、「今後は是非日本で販売する機会があるといい。日本で販売されているポリコム社のサウンドステーションよりは安く販売できる。」と言っていた。ガラスカバーで覆われていて実際にさわることにはできなかったが、見た目にも、平べったく軽そうな感じで持ち回りはいいような印象を持った。



TECOM DU8806S

また、この会社では、Triple DES の暗号に対応した通常のアナログ回線を利用するビジネスホン、Safetalk を販売している。対向で同じ端末でないとは有効にならないが、電話での会話を暗号化する機能が付加されている製品。ダイヤルする際は、「Secure」ボタンを押して 0 から 9 の任意の 8 桁の番号を入力して「OK」ボタンを押せば暗号化された電話通話ができるという仕組み。

程曦資訊整合股份有限公司は、DF-2000 を展示してい



て、通常価格 3 万円(約 10 万 3 千円)を、特別価格 2 万 5 千円(約 8 万 6 千円)で即売していた。

Multisuns Conferstations

(CNA Report Vol. 5 No.1 2003 年 1 月 15 日号参照)
Conferstations は録音用のフラッシュカード用スロットを持ち、会議録音後 PC などで聴いたり編集したりということができる。

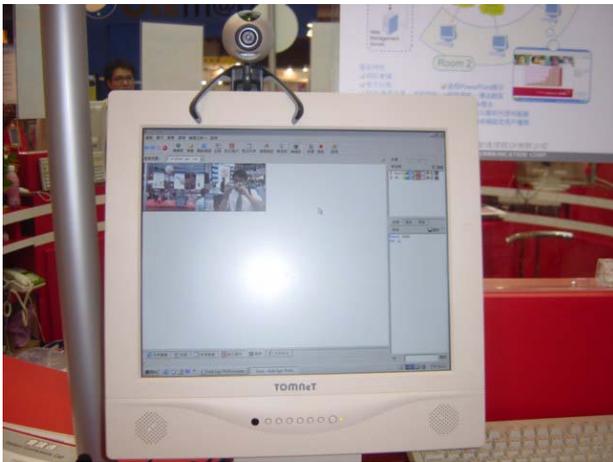
また、製造元の台湾華鼎電子公司是、音声会議用のブリッジ(多地点接続装置)ConferLink CL-800も開発している。

Web 会議・PC 会議系

ウェブ会議・PC 会議系は、4 社から展示されていて、まずは、華智通信股份有限公司(SYNC)が、ウェブ会議ソリューション「Instant Conference Call」と遠隔教育向けのソリューションを展示していた。

同社のセールスマネージャー鄭力文氏によると、「會議通(Instant Conference Call)」とくに商品名というわけではないが社内、対お客様に対してはそう呼んでいるそうだが、PC とインターネットブロードバンド環境があれば、簡単にウェブコラボレーションができるというもの。基本的な映像、VoIP でのコミュニケーション、そしてアプリケーション共有、ホワイトボード共有、チャット機能などウェブ会議での基本機能はそろえている。映像は 16 分割まで可能。ファイアーウォールや NAT についても問題はない。

写真上の左から 2 番目の映像は、編集長の橋本。ちょうど



画面をデジカメで撮っているところ。

遠隔教育向けのソリューションは、社内に管理サーバー、同期サーバー、ストリーミングサーバー、マルチメディア DB サーバーなどを立てることにより、社内イントラネットや公衆ブロードバンドインターネットからさまざまなコンテンツをストリーミングで視聴できるもの。

同社のセールスマネージャー鄭力文氏によると、「台湾では、ソリューションを売るよりも、基本的には ASP 形式でのサービスで提供するビジネス形態を取る。ASP ビジネスは

通信事業者との協力のもと行う。」台湾では企業の認識としては、導入コストが高すぎるというイメージがあるようだ。また、たとえば、マイクロソフト Office ソフトを ASP 形態で提供するところもあった。

台湾施樂事達股份有限公司(Cellstar)では、視訊通(MultiVideo)、ウェブベースの多地点テレビ会議ソリューションを展示、デモしていた。画面分割は、2 画面から最大 17 画面分割まで対応し、パワーポイントスライドなどの共有、チャット、会議記録機能、また参加者リストなども表示できる。NAT やファイアーウォールには対応している。

甲子辰資訊股份有限公司は、中国本土の宇訊通科技が開発した IP ビデオチャット DVAQ (台湾名は、ROUNDTEL)の台湾総代理店をやっているがその展示、デモを行っていた。画面上には、相手と自分の画面を表示し、縦長のメニューバーには、友達リストがあり、アニメのアイコンがあってそれをクリックするとその人にコールするという感じ。ホームユーザー向け。

まとめ

今回の展示会では、テレビ会議、音声会議、ウェブ会議と製品からサービスまで一応まんべんなく展示・デモされていた。まだここでは全てを書き切れていない感じだが、写真下(編集長橋本が遠くのオフィスにいる女性デモスタッフと英語で話しをしている最中)の PC ベースのテレビ会議システムや東信電訊股份有限公司がボーダフォン 3G 携帯テレビ電話のデモなど、また、台湾でテレビ会議などがどのように認知されているかといったことまでいろいろな話も聞いた。



SARS 後(再発するかもしれないが)は、テレビ会議への関

心、需要が高まったという声はどこのブースでも聞かれたが、冷静に「需要はこれからだが、それに合わせてさまざまなソリューションを開発する予定」という声もあった。その中で IP テレビ電話向けにディレクトリー（電話帳）サーバーを設置して有償でサービスを提供するという話も聞いた。

ブロードバンドが広がるにつれてさまざまなソリューションやサービスが台湾でもどんどん出てくるだろうという印象を持った。

最近、テレビ会議メーカーなどの業績発表では、アジア太平洋地区のビジネスの拡大が全体のビジネスに大きく貢献しているところが結構あるようだ。アジアの中でも中国の勢いはすさまじいものがあり、近い将来、アジアでは中国が、世界最大のテレビ会議市場であるアメリカをも凌駕するくらいになりえるのではないかという感じがしている。

また今月 9 月 25 日から 3 日間中国北京で DVcomm China 2003 と呼ばれるビジュアルコミュニケーションに特化した展示会が開催されるようだが、フロアマップを見る限りは世界最大の展示会になりそうだ。

今後も欧米だけでなく、中国を中心としたアジアの動きは注意を持って見ていく必要があると思う。

(台北レポート終わり)

台湾固網 高級家用電話！



CNA Report Japan (シー・エヌ・アール・レポート)
編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report Vol 5. No.15 2003 年 9 月 15 日号終わり) 次回は、2003 年 9 月 30 日を予定しております。ご購入ありがとうございました。

米国ナスダック株価情報 (9 月 16 日米現地時間)

企業名	記号	終値	純変動額	前日比	出来高
ACTテレコンファレンシング	ACTT	2.25	▼ 0.07	▼ 3.02%	71,900
クリアワン	CLROE	2	▲ 0.00	▼ 6.98%	6,800
セントラ	CTRA	3.75	▼ 0.03	▼ 0.77%	89,895
エゼニア	EZEN	0.23	▼ 0.01	▼ 4.17%	112,700
フォーゼント	FORG	3.63	▲ 0.15	▲ 4.31%	157,384
ファーストバーチャル	FVCX	2.09	▼ 0.05	▼ 2.29%	137,850
ゼネシスコンファレンシング	GNSY	2.99	▼ 0.01	▼ 0.33%	13,900
ポリコム	PLCM	17.57	▲ 0.53	▲ 3.11%	1,254,341
レインダンス	RNDC	2.83	▲ 0.08	▲ 2.91%	232,628
ラドビジョン	RVSN	8.5	▲ 0.24	▲ 2.91%	51,300
ウェベックス	WEBX	20.99	▲ 2.78	▲ 15.27%	2,622,981
ワイヤーワン	WONE	3.08	▲ 0.06	▲ 1.99%	64,791
ラディチュード	LATD	2.83	▼ 0.04	▼ 1.39%	24,500

© CNA Report Japan

72.74

▲: 上昇、▼: 下落をそれぞれ表す。

*エゼニアは、OTCBB市場